



令和元年度俳句ポスト年間特選句・秀逸句・入選句の紹介

祈りの炎星を焦がして松明し

文化振興課 ☎(88)9172

市内の名所や旧跡などの景勝地に、誰でもその場で投句できる「俳句ポスト」を設置し、年2回(9月と1月)の選句会を行っています。昨年度も市民の皆さんをはじめ、県内外から本市を訪れた皆さんが、それぞれの思いや須賀川の風情などを句に詠み、一般の部に3028句、子どもの部に5563句が寄せられました。1月30日に選句会を開き、第2回の入選句と、年間特選句、秀逸句を選びましたので紹介します(第1回の入選句は令和元年10月号に掲載)。

選者の皆さん

桔槔吟社代表	森川光郎さん
桔槔吟社同人	高久田稔さん
〃	江藤文子さん
〃	深谷栄子さん
〃	金子秀子さん
曆日俳句会会員	阪路卓美さん

年間投句状況

	投句者(人)	投句数(句)
一般	268	3,028
子ども	3,113	5,563
計	3,381	8,591

年間特選句

牡丹賞(一般の部)

祈りの炎星を焦がして松明し
伊達郡桑折町 大田 元一

ぼたん賞(子どもの部)

とう明なトンボの羽が森を来る
阿武隈小6年 安藤 和貴

年間秀逸句

赤松賞(一般の部)

赤松の木肌ほろほろ夏兆す
市内栄町 有馬 洋子

あかまつ賞(子どもの部)

かいだんをひと足ひと足のぼる春
白方小3年 殿原奈津子

翡翠賞(一般の部)

撥条のほどけるやうに牡丹の芽
市内梅田 関根 邦洋

かわせみ賞(子どもの部)

かまきりはおうじやのけんてなにをきる
柏城小1年 鹿野 隼矢

年間入選句(子どもの部)

- しぎょうしきせみのチャイムなっている
西袋一小1年 添田 希逢
- あさがおに一つだけあるちがう色
柏城小2年 長谷川由奈
- 水たまり夏の林がうつつる
第一小3年 張堂 春花
- すいせんの花がさくとき4年生
第二小3年 石岡 彩空

年間優秀校

等射賞(受賞校)

西袋第一小学校
白方小学校



牡丹賞
受賞者の声

大田 元一さん

松明あかしは、伊達政宗に滅ぼされた二階堂家と家臣を弔うため、ムジナ狩りと称した火祭が原型と聞いた。私は、五老山に大松明・姫松明が運ばれ、小松明の列が延々と続き松明太鼓の響く中、山上にいた。いよいよ御神火が到着して点火。鎮魂の火柱が勇壮に豪快に夜空を焦がし、火の粉が舞い上がり、最高潮に達する。この火祭りを目の当たりにし、400年余の時を経て今に伝え、俳句の季語とした須賀川市民の熱意と人情の機微に触れ、この句を詠みました。



ぼたん賞
受賞者の声

安藤 和貴さん

夏に森へ行った時、トンボがすごい勢いで飛んできて、ぼくの目の前の草に止まりました。「遠くから飛んできて、疲れているのかな」休んでいるトンボに気づかれないように、息をひそめつつ、その薄くてとう明な羽を眺めていました。その時のことを句にしました。今回、ぼくの俳句が賞に選ばれたときいて驚きましたが、とてもうれしかったです。これからもその時の場面や気持ちを表現出来るような俳句を作っていきたいです。

第2回選句入選句

一般の部(7句)

- 祈りの炎星を焦がして松明し
伊達郡桑折町 大田 元一
- 林泉をくると返へす秋の色
市内栄町 有馬 洋子
- 宙を突く火柱いよよ松明あかし
市内千日堂 稲田 スミ
- 白河の関を越えれば冬の空
市内栗谷沢 岩谷 晃

子どもの部(33句)

- 冬ざるる改札口の向かうがは
市内和田 佐藤 秀治
- 五分程早い花火や村祭
市内梅田 関根 邦洋
- 赤松の空まつすぐに小鳥くる
市内稲荷町 渡辺 圭子
- ゆきだるまかわいいうの手が2ほん
稲田小1年 草苺 睦実
- ゆきがふりしろいぼうしのぼすとたち
阿武隈小1年 吉成 鈴菜

- かまきりはおうじやのけんてなにをきる
柏城小1年 鹿野 隼矢
- あきのかぜどこまで行くのかききたいな
柏城小2年 有我なのは
- おにごっこぼくをおすのは秋の風
柏城小2年 菅野 圭斗
- ながればしまるい月をどびこえた
柏城小2年 坪井 杏樹
- あさがおに一つだけあるちがう色
柏城小2年 長谷川由奈
- みあげるとふつてきそうだぶどうがり
柏城小2年 渡辺満莉愛
- かわいいいな小さな雪だるま
大森小2年 若松 奈那
- すいせんの花がさくとき4年生
第二小3年 石岡 彩空
- 子どもの日ウルトラマンと見る牡丹
西袋一小3年 遊佐 友裕
- すきま風冬をしらせにしのみびこむ
阿武隈小3年 高橋 彩華
- お父さんいねかりやってよこれてる
柏城小3年 鈴木 翔空
- お年玉ためておこうか使おうか
第三小4年 瀬和 凜空
- 木枯らしが口笛ふいて去っていく
西袋一小4年 金澤 慶依
- たいまつよもえる火のちのちの中
小塩江小4年 吉田 蒼介
- ごみぶくろずつとみている冬からす
阿武隈小4年 佐久間千夏
- のぼりぼうのぼると紅葉見えてくる
柏城小4年 安田 明翔
- 校庭の風にまけるな赤とんぼ
柏城小4年 佐藤 優衣
- 初日の出特等席は丘の上
大森小4年 関根 颯良
- 妹と競争しながら丸もち
西袋一小5年 穴澤 拓実
- しも柱出来てふまれてまた出来て
西袋一小5年 鈴木 結士
- 鳥がくるなんてんの実がざわざわ
西袋二小5年 伊東 優羽
- 登下校橋からみえる冬の山
阿武隈小5年 鈴木 果乃
- さむかった走りおわった二校時
柏城小5年 大久保快音
- パッパパ朝顔たちが歌ってる
長沼小5年 上杉 瑞葵
- 冬の朝ぼくのあしあだけの庭
白方小5年 深谷 昇生
- こどもえんやねのうえからこいのぼり
白方小5年 石崎 灯里
- 制服を買ってもうすぐ中学生
第二小6年 今野 結奈
- くもの糸冬の紅葉をつかまえた
西袋一小6年 佐藤 かの
- 日足伸び猫はきちんと足そろえ
西袋一小6年 本間 琉菜
- 持久走グラウンド五周紅葉の中
柏城小6年 名越 大翼
- チューリップ一年生と育つてく
白方小6年 七海 綾哉

※学校名、学年は、投句されたときのものです。